

2024 年 3 月 18 日

「知事回答」に対する私たちの見解

伊方原発をとめる会

事務局長 須藤 昭男

私たちの公開質問状に、中村時広知事からの文書回答が期限の 3 月 8 日付で届きました。

知事の「回答」は、能登半島地震で明らかになった避難路の寸断、家屋倒壊の問題など逆断層による重大な被害を重視していません。結果として、伊方原発に対する県民の不安に真摯に向き合っておらず、住民の命と暮らしをないがしろにした残念な回答でした。

以下、項目ごとに短くコメントを入れております。

【問 1 について】

「能登半島地震」に関する問いでしたが、回答は、能登半島地震の深刻な現実を目をふさいだまま、従来の認識を安直に繰り返したものです。

【問 2 について】

中央構造線活断層帯における地震で、震源からの距離が極めて近い場合の原発の危険性を知事に問いましたが、危機意識の欠如した認識が示されました。

【問 3 について】

能登で甚大な被害をもたらした「逆断層」が、佐田岬半島でも懸念されることを問いましたが、回答に「逆断層」の文字はなく、「新たな知見」待ちの認識でした。

【問 4 について】

四国電力が震源断層の「南傾斜（中角度、低角度）」をほとんど無視しているのに、「断層の傾斜角も含めて」適切に策定されていると強弁しました。

【問 5 について】

住民が放射線防護対策施設にたどりつけない場合や収容人員を越えた後の対処方法を問いましたが、それに答えず、屋内退避と「自助・共助」を強調するばかりでした。

【問 6 について】

再エネを徹底活用できる「新しい技術」の活用を促しましたが、「効果をふまえつつ」としただけで、「既存の原発の利用は一定規模で継続」と進歩なき回答でした。